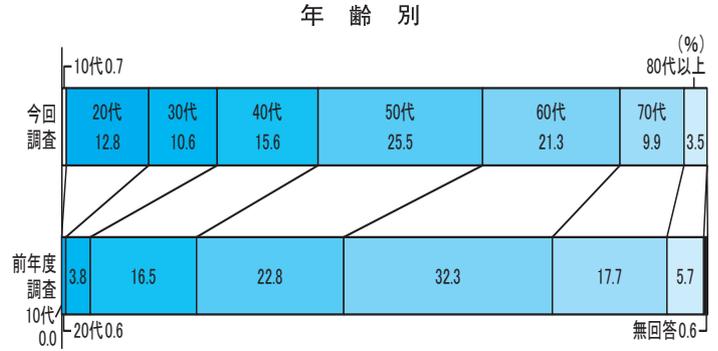


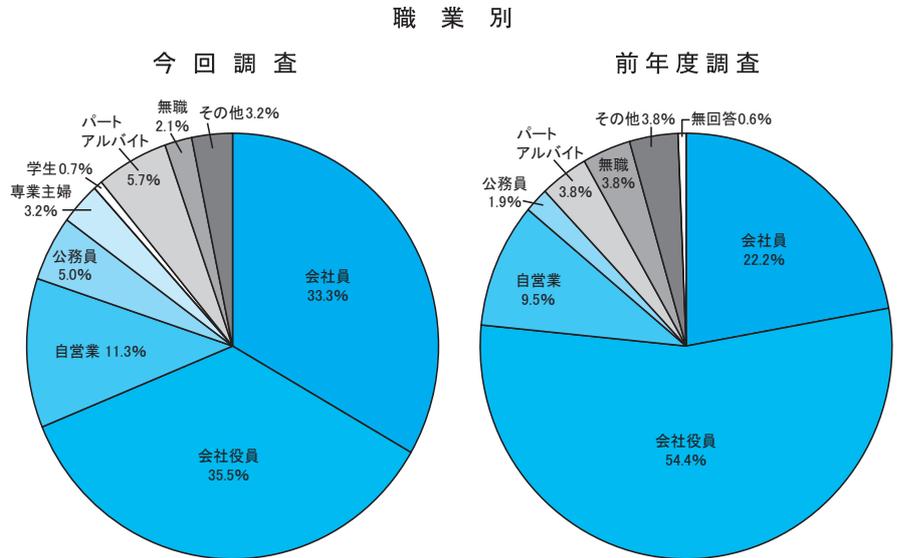
ウィズ・アフターコロナ期のリニア中央新幹線に関するアンケート 当地域のリニアへの思いは7割が「期待している」

当金庫は昨年度コロナウィルス蔓延のもとで、リニア中央新幹線に関する意識調査の緊急アンケートを実施（令和2年3月）した。本年度は、アフターコロナを見据えたアンケート調査を計画し、昨年12月から開始したが、その後コロナ第6波が来襲。ウィズコロナ期におけるアンケート調査の感がある。以下、中間報告としてその概要を報告する。



1. 地域一般を調査対象に

前年度緊急アンケート調査は、弊社調査先および読者158人の回答によるものであったが、今回は、調査先・読者に加え、当金庫本支店に来店される方および営業担当者により取引先様に回答をお願いした。またオンライン回答も導入して、282人から回答を得た（2月21日現在）。お忙しい中ご協力いただいた皆さまには厚く御礼申し上げます。



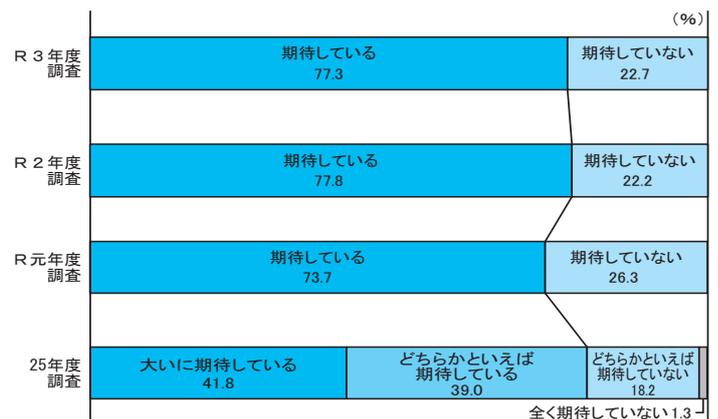
回答者の属性情報は、地区内の様々な方々にお願いした結果、前回と比較して年齢別で30代以下の年齢層の比率が増している。性別をみると、女性の比率は、前年度調査が13.3%のところ今回調査は28.7%となった。また回答者の職業は、前年度調査の会社員・会社役員で76.6%が今回調査では68.8%であり、地域内外のより広くの皆様の声を聞くことができたと考える。

2. 「リニアに期待」は引き続き多数を占める

まず、「Qリニア中央新幹線に期待しますか」の設問に対し、「期待している」は77.3%で前年度調査の77.8%とほぼ変わらない結果となった。

前年度調査が産業界・経済界を中心としたものであったのに対し、今回調査では広く一般の意識を伺っているため、「期待する」比率がある程度低まるのでは、という仮説を立てたのであるが、結果として、

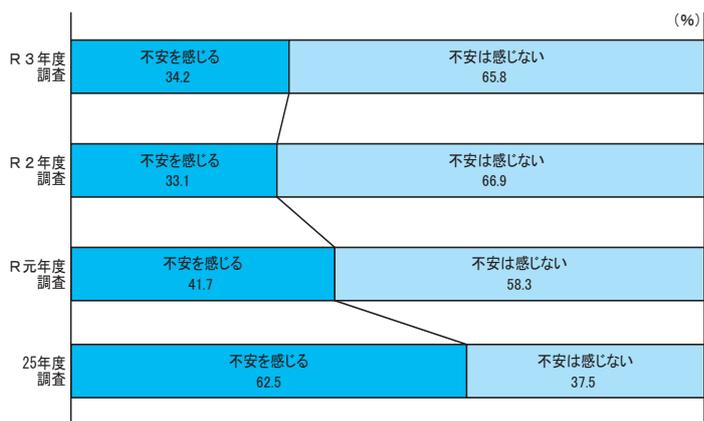
Q リニア中央新幹線に期待しますか



一般の皆さまから寄せられた回答を集計していく中で、むしろ数値が高まって前年度調査結果に近づく結果となった。当地域では、全般にリニア新幹線に対する期待は依然として高いといえる。

「Q リニア中央新幹線に不安を感じますか」の設問では、「不安を感じる」の比率が、前年度調査の数値をやや上回っている。自由記入欄への書き込みからは、昨年発生したトンネル工事現場の落盤事故や発生土の搬送・処理に関する懸念などから不安を感じていることが読み取れるが、他方で、静岡県内の状況など、「本当に完成（開通）するのか」「いつ開通するのか」といった「不安」を表明される回答も一定割合含まれている。

Q リニア中央新幹線に不安を感じますか

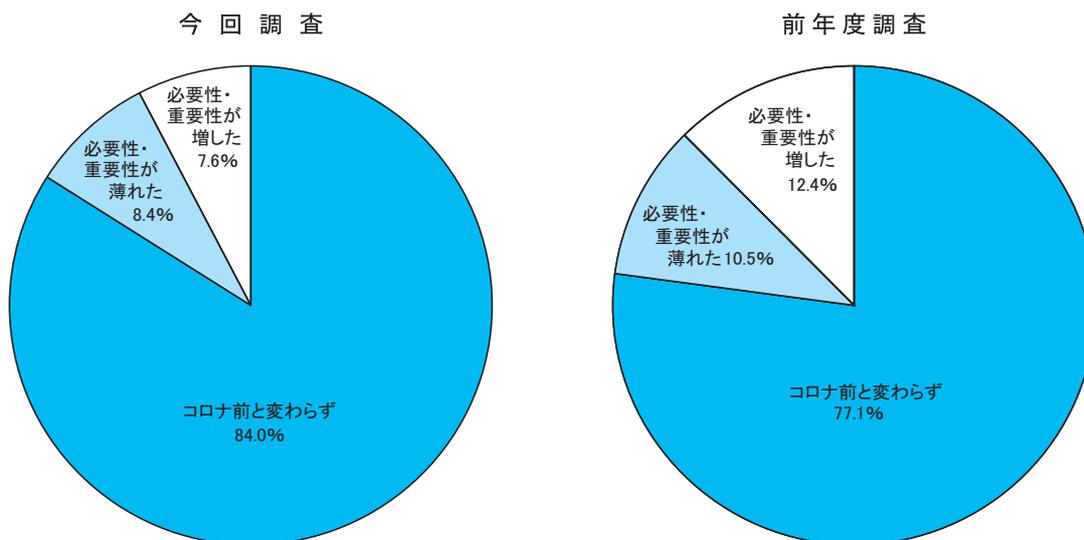


3. コロナ禍を経てもリニアに対する思いは変わらず

コロナ禍を通じて、リニア中央新幹線に対する意識が変わったかどうかの変化を前回調査からお聞きしている。今回調査ではリニア新幹線に対する思いは、「コロナ前と変わらず」が84.0%となり、前年度調査から7ポイント近く増加している。今回広く地域の声をお聞きすると、コロナ禍を経てもリニアに寄せる思いは全般に広くみられる、つまり一般の方々に「コロナ前と変わらず」の意識が広くみられる。

他方で、前年度調査ではリニア新幹線の「必要性・重要が増した」が「必要性・重要性が薄れた」を2ポイント近く上回っていたのに対し、今回調査では「必要性・重要性が薄れた」が「必要性・重要性を増した」を僅か0.8ポイントであるが上回った。

Q コロナ禍を経て、リニア新幹線への思いは変わりましたか



本アンケート調査の詳細については、後日取りまとめる予定の調査報告書において、報告することといたします。

(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)